

※本ページは採択後公開されます。

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】 交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。（自立的で継続的な国際研究交流拠点の構築と次世代の中核を担う若手研究者の育成の観点からご記入ください。）

貧困削減と持続的発展の実現は、国際社会の最重要課題であり、特にサハラ以南のアフリカ地域（SSA）において重要度が高い。その実現のためには、貧困人口の大半が生計を営む農村に焦点を当て、急速に成長するアジアの長期経済発展メカニズムを分析し、アフリカ農村と比較を行うことが有効なアプローチである。分析に適した長期の農家パネルデータは両地域に存在する。これらは、アジアで30-60年、SSAでも20年近く調査が継続されている稀有なデータセットである。しかし、これまでは各国で個別に実施・分析がなされており、統一的な整理と分析が欠如していた。

この背景を踏まえ、本事業による拠点形成の目標は4つ。第一に、拠点を形成することで、これまで個別に維持管理されてきた農家長期パネルデータを統一フォーマットで整備する。第二に、その整備されたデータを使い、共同研究として国際比較分析を行い、経済発展と貧困削減の理解を深化させる。第三に、若手の積極的参加を促し育成することで、データを次世代に継承し、拠点の継続と将来の発展につなげる。第四に、そのようにして整備されたデータをポータルなどで知的国際公共財として公開し、多くの研究者や実務家に活用してもらうことである。

上記の目標を国ごとのプロジェクトの集合体ではなく、拠点を形成し統一的に追及することのメリットは大きい。第一に、個別管理の場合、データはそれぞれの国の個別の理由（例：資金難や担当の代替わり）で消失してしまう危険がある。拠点を形成し連携して管理することで、貴重なデータをそのような理由で消失させてしまう危険を減らすことができる。第二に、統一的に整備されたデータによる国際比較分析は、整合的な比較が可能となり、より有益な含意を導くことができる。第三に、拠点として上記の作業に積極的かつ国際的に若手研究者や大学院生を起用し、育成することで、拠点の活動を次世代につなげることができる。具体的には、現地調査等の経験の蓄積、若手間の国際交流による将来的な国際共同研究の下地作りである。これらの活動を通し、貴重なデータの次世代への継承と若手による自立的な研究の継続が可能となる。第四に、貴重なデータを整備された形で拠点から公開し、知的公共財を供給することで国際的認知度を高める。共同研究結果の拠点からの発信も国際的認知度を高める。その結果、個別には難しい資金の確保につながり、自立的かつ継続的な活動が可能となる。また、対象国を広げることも可能となる。

目標の達成のために、本事業は、これまで日本側メンバーが関わり、信頼関係が構築されているフィリピン、バングラデシュ、インド、ケニア、ウガンダ、エチオピア、ザンビアの7か国を対象とする。これにより、東南アジア、南アジア、東アフリカ地域の比較が可能となる。日本側が関わったものも含めこれらのデータからこれまでに多くの学術的成果が生み出されてきた（社会科学分野で確認できる範囲で本・論文合わせて593件）。本事業では、国際研究交流拠点として個別のつながりを若手を積極的に含める形で全体に広げ、共同研究を加速させ、目標を達成する。

【研究交流計画の概要】 我が国と交流相手国の拠点同士の協力関係に基づく多国間交流として、どのように①共同研究、②セミナー、③研究者交流を効果的に組み合わせて実施するか、研究交流計画の概要を記入してください。

①**共同研究**：統一フォーマットで整備したデータを使い、次のテーマで国際比較研究を行う。アジアの緑の革命の経験とアフリカへの適用可能性、非農業部門の発展と人的資本の役割、保健や医療と経済発展、気候変動と持続的農業などである。②**セミナー**：初年度にキックオフ会議として関係国で集まりそれぞれのデータの特徴や成果を発表することでお互いの交流と理解を深める。最終年度に公開国際セミナーを開催し、研究成果を共有する。これにより拠点の認知度を高める。③**研究者交流**：セミナーだけでなく各国の現地調査にメンバーが相互に参加することで現地の理解と交流を深める。特に若手が積極的に関わることで現地調査とデータマネジメントの経験の蓄積を目指す。

※本ページは採択後公開されます。

【実施体制概念図】本事業による経費支給期間（最長３年間）終了時までには構築する国際研究交流ネットワークの概念図を描いてください。

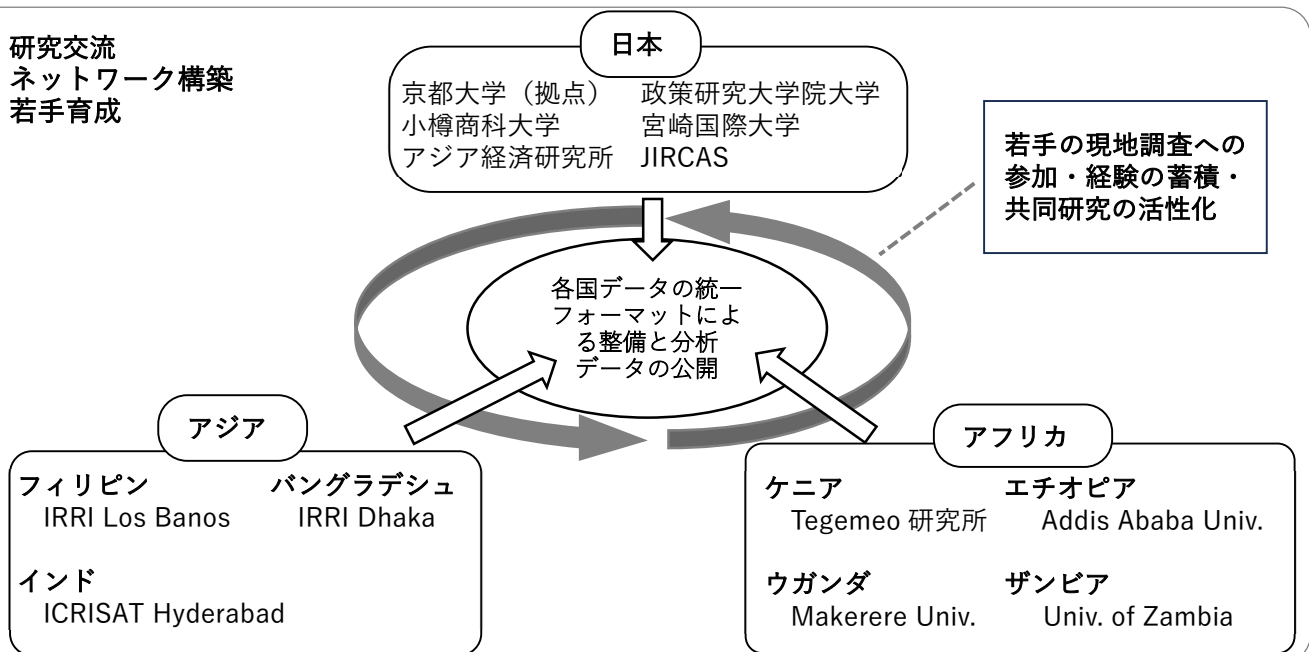
背景

- 国際社会の最重要課題：貧困削減と持続的発展の実現
- アジアの急成長とアフリカの停滞 ⇐ 国際比較研究の有効性
- 貴重な長期の農家家計パネルデータは存在⇒しかし、各国で個別に実施・管理
- 統一的整理と分析の欠如

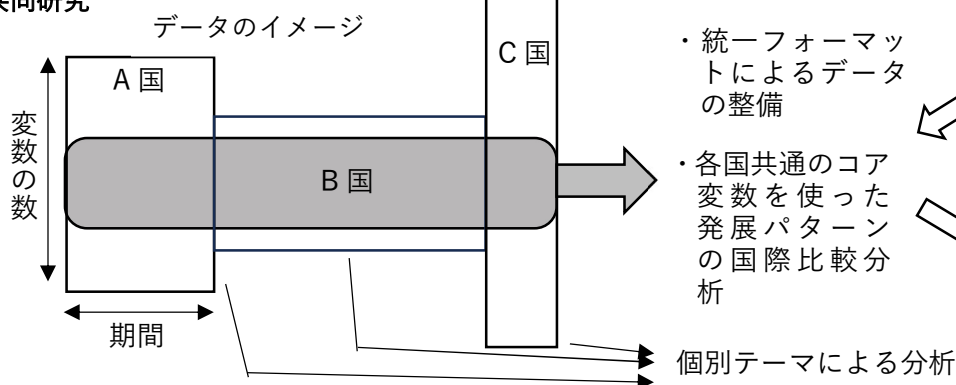
目標

- 拠点を形成し農家長期パネルデータを統一フォーマットで整備する
- 国際比較分析を通して農業発展と貧困削減の理解の深化を目指す
- データを次世代の若手に継承し、拠点の継続と将来の発展につなげる
- データを公開し多くの研究者や実務家が活用できるようにする

研究交流
ネットワーク構築
若手育成



共同研究



国際セミナー

- ・ 初年度：相互理解のためのキックオフセミナー
研究者間交流
- ・ 最終年度：比較研究成果発表
国際発信と新規参加国招待

貢献

学術的貢献

- ポータルでデータを知的国際公共財として公開
- 経済発展や農業発展の理解の深化
- アジアの経験の整理とアフリカへのレッスン

社会的貢献

- 貧困削減と持続的発展

将来

- 若手によるデータの継承と研究の継続
- 恒久的なデータアーカイブの構築
- 対象国の拡大